

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 411 回 「東北魂」への鎮魂歌

2011.3.27

僕は、現状をこの目で見たわけではありません。
もし、この世に「地獄」が在るとすれば、
このことを言うのかもしれない。

80歳のおばあちゃんも、
わずか5歳の坊やでも、
今まで生きてきたすべての環境を破壊され、
すべての価値観も失くしそうになった時、
僕なら、どうするだろうと考えます。

今、そんなことが目の前で起きています。

「支援」と称するたくさんの人間の善意と愛情と、
溢れんばかりの慈悲を戴きながら、
それでもあなた達の現実が、癒されるとは思いません。

これから始まるのは、自分自身との葛藤です。
極悪の「地獄」の中で、忍耐の限界と精神状態の劣悪から、
生来の人間の「業」がすべてを支配しだす。
憎悪、妬み、恨み、それが生きるだけの欲望と化し、
醜態なる「地獄絵」を描く・・・そう、これが極自然の動きです。

だから、もう、あまり我慢をするなど言いたいんです。
頑張っ、頑張っ、歯を食い縛り頑張っ・・・
そんなあなたの姿を見るにつけ、
涙がひた落ち、止まりません。

もう、あまり我慢をするなど言いたいんです。
負けるな・・・諦めるな・・・
そんな応援や励ましの重荷を、
いったん背から下ろしてみよう。
少しは甘え、わがまを言ってみたらいい。

「ホッとした」気分が、あなたを楽にするかもしれません。
これからは、そんな時期だと思ってください。

あなたの顔に「安堵」の笑みが出た時に、
「地獄絵」が消えていく・・・
今僕は、
そう、願うことしかできないでいる。